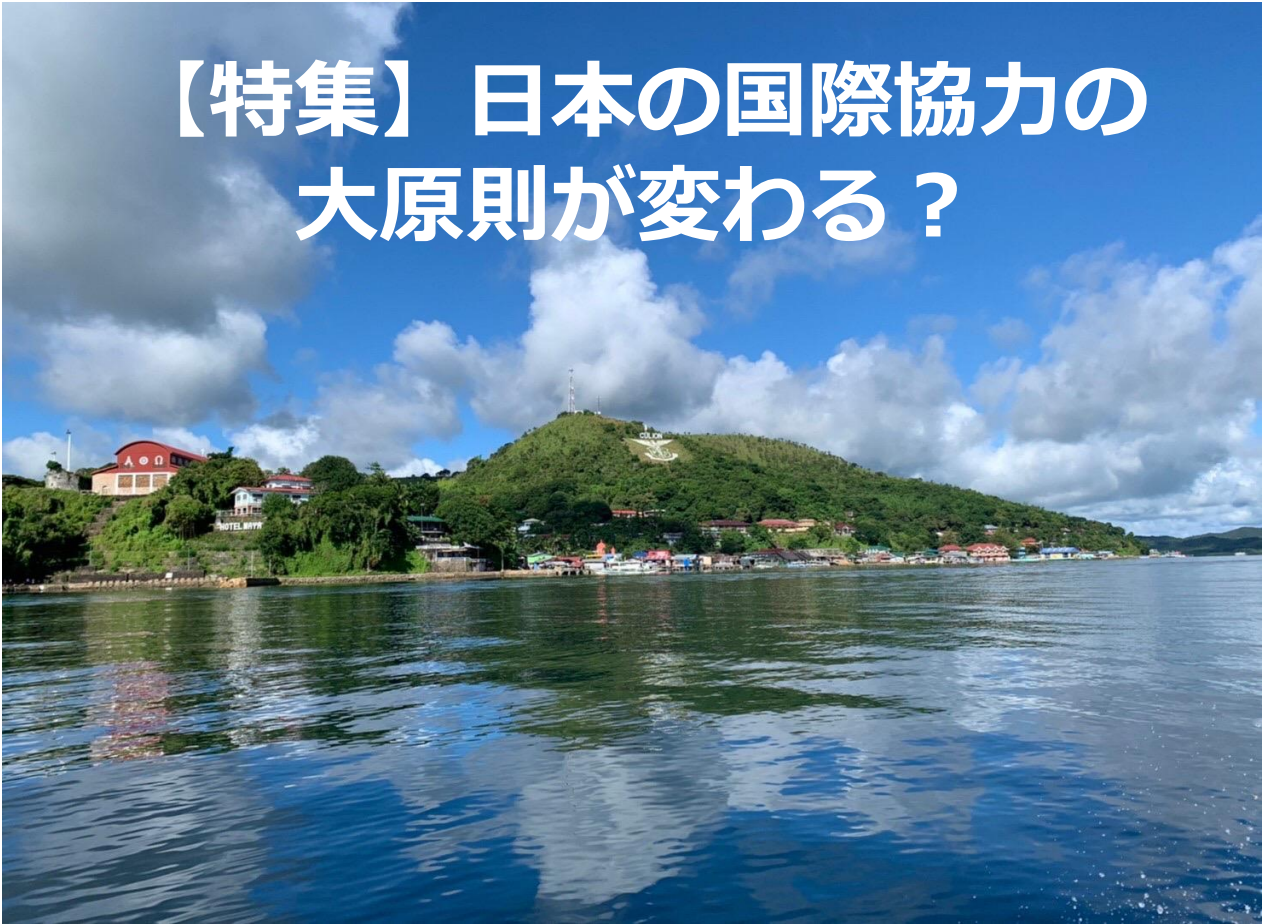


【特集】日本の国際協力の 大原則が変わる？



この美しいフィリピンの島にはある歴史があります。
それは…5ページの記事をお読みください。

☑ 国際協力大綱の改訂について

日本のODA（政府開発援助）の基本原則である開発協力大綱が、今改定されようとしています。どう変わるのでしょうか。現地の状況を知るNGOは、援助がよりよいものになるように、また援助による悪影響が出ないように、この改定に様々な意見をあげています。今回は、NGO外務省連携推進委員会・調査提言委員の塩畑真里子さんにそのポイントをまとめていただきました。

特集記事は次のページから **➤➤➤**

▼ 目次【VOL.145】

- 2-4 [特集]国際協力大綱について
- 5 FUNN加盟団体活動レポート
- 6 FUNN活動レポート
- 7-8 NGOカレッジ開催のお知らせ
- 9 イベント情報・お知らせ

☑ ODA（政府開発援助） (Official Development Assistance)

発展途上国の経済発展や福祉の向上のために先進工業国の政府及び政府機関が発展途上国に対して行う援助や出資をいいます。

日本ではODAの基本原則として「開発協力大綱」が平成4年6月30日に閣議決定され、平成15年に改正、今年9月にさらなる改正がされることが発表されました。

開発協力大綱の改定 市民社会組織の問題意識

塩畑真里子（NGO外務省連携推進委員会調査・提言員）

はじめに

外務省は今年9月に開発協力の基本方針である「開発協力大綱」の改定に着手することを発表した。新大綱が公表されるのは2023年はじめとなり、前回の改定は2015年であったので、8年ぶりにその内容が見直されることになる。

この改定にあたり、外務省は、学識者、経済界、国際機関、市民社会組織の代表者から成る「開発協力大綱の改定に関する有識者懇談会」を設置した。懇談会は4回の会合を経て、今年中に有識者懇談会報告書を提出する予定である。

国際協力NGOをはじめとする市民社会組織は、NGO外務省定期協議会での協議を経て選出された市民社会組織代表に加え、6名の「アドバイザー」が同代表をサポートする形で外務省が示す改定内容の方向性について意見を交換、市民社会組織としての論点の整理と見解の提示を行ってきている。さらに、より多くの市民社会組織関係者をこのプロセスに巻き込み、幅広い意見を集めるために、9月以降、複数回にわたって「NGO円卓会議」を開催してきた。同会議には毎回100名近くにのぼる関係者が参加しており、活発な議論が展開されてきている。

大規模インフラ開発からボランティア派遣に至るまで、政府開発援助（ODA）が扱う活動内容は実に幅広い。これまで市民社会はODAの情報公開と透明性の確保、環境破壊や人権侵害の抑止を日本政府に対して申し入れてきたのと並行し、ODAのインパクトを高めるためにも市民社会組織が実施の担い手となり、効果的に参画する戦略的なパートナーと位置づけることも求めてきた。

今回の改訂にあたっては何が焦点になっているの

だろうか。ここでは、市民社会組織側が一貫して求めている、①非軍事原則遵守、②人間の安全保障、③市民社会組織との連携の強化、の3点に絞って紹介したい。

①非軍事原則遵守

今般の大綱改定の背景について、外務省は「2015年の策定時からの大きな情勢の変化を踏まえ、時代に即した形で開発協力の在り方をアップデートし、一層効果的・戦略的に実施するため」としている（外務省ホームページ「開発協力大綱の改定」）。今年2月のロシアによるウクライナ侵攻やインド太平洋地域の地政学上の変化が念頭にあることは明らかである。前回2015年の改定時から市民社会側が警戒してきたのは、まさにこの国家安全保障と国際協力をより近づけようとする政府側の意思であった。同ホームページでは、「改定の方向性」と題する資料が公開されており、そのなかでは「普遍的価値に基づく国際秩序は厳しい挑戦を受けており『自由で開かれたインド太平洋』の理念の具現化がますます緊要」としている。

市民社会組織が考える開発協力とは、貧困削減、格差の是正、周縁に追いやられた人々の権利の回復であるが、今般の大綱改定の方向性では「国益の確保」がより強調されていること、それによって開発



▲台湾島最南端から見る海。インド方面と太平洋が同時に見える（写真提供：高橋孝治（本誌編集委員））

援助と軍事・安全保障の区分が曖昧になることに市民社会組織は強い警戒心を抱いている。

特に、中国が推進する一帯一路構想の対極として、外務省が「自由で開かれたインド太平洋」を「普遍的な価値」と提示していることに対し、市民社会組織は国民として違和感を抱くということを再三訴えてきている。

2015年の大綱改定では、非軍事原則を維持しつつも、「民生目的、災害救助等非軍事目的の開発協力を相手国の軍又は軍籍を有する者が関係する場合には、その実質的意義に着目し、個別具体的に検討」と適用要件を緩和した経緯があり、今般の改定にあたって、ODAの軍隊や統治・治安機構の能力強化への適用がさらに拡大することを市民社会としては懸念している。国によっては「民生目的」という名目で日本の支援が軍事目的に使用されている、といった誤解を招く可能性も排除できず、そのような場合は日本に対する信頼が損なわれる恐れもあろう。機材供与あるいは能力強化という形で、軍隊や統治・治安機構を対象にODAが使用される可能性について市民社会は引き続き注視していく必要がある。

②人間の安全保障

日本政府は、すべての人々を脅威から守り、生存と尊厳を確保するという考えに基づく「人間の安全保障」を外交の主要な柱と位置付けている。その一方で、ODAにおいては、経済安全保障や日本企業の海外展開支援を優先的に掲げている。前回の大綱改定の後、2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ（通称SDGs）」では、普遍的価値として、人権アプローチ、「誰一人取り残さない」、ジェンダー平等の達成が明確に掲げられている。現行の国際協力大綱にはこれらの概念が十分に組み込まれていないのが現状である。また、

今般の改定においても経済安全保障および日本企業海外展開支援を前面に打ち出しているため、人間の安全保障は外交の柱としては位置づけられていても、実際の国際協力の活動においてその概念を十分に実施に移行することが難しい状態が続くことを市民社会としては懸念せざるを得ない。

前述の外務省の「改定の方向性」のなかでは、地球規模課題の深刻化と複雑化を受けて「新たな時代の『人間の安全保障』を推進する」とあり、そのためには貧困削減、気候変動対応、人道支援の強化を掲げているが、これらの課題にどのような新しいアプローチで対応していくのか、経済安全保障とどのように両立させていくのか、十分に議論されているとは言い難い。

アジア地域では大半の国が中所得国となり、貧困率は総じて下がったものの、国内経済格差が拡大傾向にあること、それが新型コロナウイルスの発生によってさらに顕著化していることは周知の通りである。また、これは日本にも共通する課題でもあろう。開発協力は「先進国から途上国へなされるもの」という従来の垂直的モデルからより相互依存的な水平的モデルへの思考転換が求められている。より人間を中心に置いた開発協力のあり方が大綱のなかで明確に打ち出されることが必要である。

③市民社会組織との連携

日本のODAの特徴のひとつとして、他国と比較しても市民社会による開発協力の割合が圧倒的に少ない点がある。NGO連携無償資金協力等の予算は過去数年、徐々に拡大してきているものの、それでも、開発協力委員会（DAC）諸国平均でODA予算の約15%を市民社会組織を通して実施しているのに対し、日本のODAでは2%以下である。圧倒的に政府機関による事業実施の割合が高いのが日本のODAな

のである。

一方、日本の外では、従来の先進諸国のみならずむしろグローバル・サウスで市民社会組織の能力や役割は飛躍的に高まっており、北側諸国のなかにはこのような南側の組織に対して積極的に資金的に支援する傾向が強まっている。

日本のODAにおいても市民社会組織の固有の価値を認め、建設的な対話を通して連携を強化、日本による支援の質とインパクトを高めていく方向へ転換することの必要性を訴えている。

[塩畑真里子（NGO外務省連携推進委員会調査・提言員）]



ちょこっと解説

ODAの意義

発展途上国が、ODAを受け入れる理由としては、外貨の獲得、投資資金の獲得、優れた技術の吸収などがあります。

これに対し、先進国がODAを提供する理由としては、国際社会での支持を得るため、自国の企業の利権確保、国民の利他心の充足などがあげられるとされています。

ODAの方法

ODAには、発展途上国などを直接支援する二国間援助と、国際機関に拠出する多国間援助があります。二国間援助には、さらに有償資金協力（金銭の貸付）、無償資金協力（金銭の贈与）、技術協力（研修員の受入れ、専門家派遣、最新機材の供与などを無償で行う）があります。

SDGsとは

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015年9月25日に国際連合総会で採択された国際目標です。環境などを含めて、将来の世代のことも考えた社会を目指した発展を行うというものです。

[1頁の「ODAとは」を含め高橋孝治（本誌編集委員）]



SDGs実施指針改定に関する勉強会 in九州 を開催しました。

SDGsという言葉はかなり認知されてきましたが、政府がその実施指針を出していることは知らない方が多いのではないのでしょうか。2023年に2度目の指針改定が予定されていますが、政府だけで進められるものではないので、民間からの意見集約のプロセスが進んでいます。地方の声もあげてほしいという誘いを受け、ユースで取り組まれているJYPS（持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム）さまと10月上旬、勉強会を持ちました。

短い告知に関わらず、NGO関係、ジェンダー問題に取り組みに来てきた方、地方議員の方、学生など、いろいろな方にご参加いただきました。JYPS共同事務局長の鈴木千花さんよりプロセスやこれまであげられている課題について話していただいた後、参加者の方よりいろいろなご意見をいただきました。

SDGsが環境問題に偏っているのでは、飢餓への取り組み、ジェンダーをもっと全般的に記述を、データのとり方等々。こうした意見を取りまとめて、パートナーシップ会議という場に提出しています。

SDGsへの取り組みは、もちろん一人一人のアクションが大切ですが、今回、政府・行政がどう取り組んでいくのかといった制度面への注目も大切ということ、改めて感じました。

SDGsも折り返しの年を迎えます。昨今達成に不安を感じる事態が続きますが、2030年に向けなんとか前に進んでほしいと思います。

[安村妙（FUNN事務局長）]

3年越しのワークキャンプ°（FIWC九州活動報告）

FUNN加盟団体のフレンズ国際ワークキャンプ（FIWC）九州は、ワークキャンプを通じ、貧困や差別などの困難が生じている地域の問題解決に取り組む学生団体です。コロナ禍で活動はしばらく国内に限定されていましたが、この夏インドネシアとフィリピンでワークキャンプを実施しました。今回はFIWC九州委員長で大学生の安武みなみさんに、活動から得たものを報告していただきました。

2022年の夏、3年越しに海外への渡航が叶い、FIWC・OBの資金協力を得て、フィリピンのクリオン島でワークキャンプを企画・実施した。クリオン島は、5000名を超えるほどのハンセン病患者が収容された世界最大規模の療養所としての深い歴史がある。私たち参加者3名（九州1名、他は九州外）は、事前の情報収集から新規キャンプ地をここに絞り込み、島へ向かった。

今回10日間のキャンプでは、前半は島の病院でハンセン病快復者の方々に話を伺う活動をし、後半は一緒に生活をしたいという思いからホームステイをさせていただいた。

一般的に、フィリピンの社会問題と言えば、真っ先に浮かぶのは貧困の問題だろう。中には、「なぜ、今ハンセン病にこだわるのか」と思う方もいるかもしれない。けれど、私自身にとってそこにはこだわるべき大切なものがある。そのことを少し書きたい。

私がハンセン病と出会ったのは、大学1年生の春だった。当時ハンセン病という名前すら全く聞き馴染みがなかった。ただ、何度も現地へ行くほど当時の先輩方の心を熱くさせる、“ワークキャンプ”の存在が妙に自分の心に刺さっていた。今、自分が必要のためにできることをしたいという気持ちだけで、あまりいい印象を持っていなかった中国でのキャンプに参加した。しかし、村人と関わる中で言葉にしがたいものを感じ、自分の存在価値を見失ってしまった。しかし、そんな私を村に住む劉茂珍と朱伯というご夫婦が可愛がってくれた。

帰国後、彼らが自分に向けてくれた“優しさ”や“笑顔”の意味を考えると、何かgiveしたいと思っていた私自身が、むしろ彼らに愛や生きる強さをgiveしてもらっていたことに気づいた。

その日から私にとって、ハンセン病を考えることは、人生を考えることになっていった。村人が私に愛を教えてくれた。だからこそ彼らと過ごす時間は、無意識に涙が出てしまうほどぎゅっと胸が締め付けられ、温かな時が流れるものとなった。私は彼らと出会ったことで“生き直し”の機会をもらったのだ。

今年の夏、クリオン島へ行って感じたこと、それは、私とあなた(島人)が共に過ごした時間は儂いものであったとしても、人と人のツナガリが生んだ絆や愛は彼らの心にしっかり刻まれているということ。そして、またあなたに会いたい、と思ってくれる人がいるということだった。

私たちがワークキャンプを通じ、学生という立場で彼らのためにできることは微小なことかもしれない。しかし、私は、私たちが村人の生き方から考え続ける姿勢は、単に差別をなくしていくためではなく、もっと奥深い、人生を生きていく上で大切なものに気づくプロセスであると信じている。

〔安武みなみ（FIWC九州委員長）〕



▲ お世話になった島の皆さんと（安武さん提供）

西南学院大学でNGO合同説明会開催しました

9月30日（金）に西南学院大学ボランティアセンター様と合同で「せいなんボランティアカフェ《国際協力NGOフォーラム》」を開催しました。前半はJICA福岡デスクと協力隊OBの方の講演、後半はFUNNを含む5つのNGO団体が自団体の紹介を行いました。その後各個別ブースに分かれ、学生に向けてより詳細な説明を行いました。40名程度の学生の方にご参加いただき、「興味を持った団体のボランティアに参加したい」「自分の専門分野の活動の幅を広げるチャンスを得た」といったお声をいただきました。

ご参加いただきました学生の皆様、各団体の皆様、本当にありがとうございました！（加藤）



【参加団体】

- ・ トゥマンハティふくおか
- ・ ISAPH
- ・ フレンズ国際ワークキャンプ九州
- ・ バングラデシュと手をつなぐ会
- ・ 福岡YMCA
- ・ 国際協力機構（JICA）福岡デスク

2022年度九州地域NGO活動助成金

今年度も真如苑と共同で実施している『九州地域NGO活動助成金』2022年度は8団体からの応募があり9月24日に外部有識者等による選考審査会の結果、以下の事業が採択されました。

今年度は日本国内における在留外国人支援等の多文化共生事業や海外での緊急支援に関するプロジェクトの採択も行いました。

今回採択しました事業につきましては今後もFUNN事務局にて定期的に事業の進捗状況の確認や相談等継続的にサポートしてまいります。また、各団体の採択事業の報告もFUNNホームページで定期的に発信してまいります。

（松崎）



【2022年度採択団体と事業一覧】

団体名	実施事業名
（一社）モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク共和国 カーボデルガド州 テロ避難民 施設整備
（任団）子どもに能楽を勧める会	子どもと留学生の能楽発表会と他文化団体との交流会
（一社）福岡デンマーク協会	デンマークセミナー及びデンマーク講座
（特活）ISAPH	食用昆虫養殖の普及拡大を担う指導者育成事業
（特活）地球市民の会	アニメーションを通じて考える「食」とSDGs
（任団）「ともに学ぼう！」～日本の言葉・生活・文化～	「ともに学ぼう！」日本の言葉・生活・文化 組織基盤整備事業
（特活）トゥマンハティふくおか	働く外国人のためのメンタルヘルスサポート事業

《第22期NGOカレッジ～わたしと世界の関わり方～》 開催のお知らせ



これまでFUNN主催のNGOカレッジでは、
国際協力にまつわる様々なテーマで学びの場を作ってきました。

2022年度のテーマは『わたしと世界の関わり方』

「国際協力やNGOに興味はあるけど、何から始めればいいのか？」

そんな方に、NGOや国際協力について学び合い、

NGOと「出会う場」となるように企画しました。

実践を踏まえた素晴らしい講師の方々です。3月にお会いしましょう！

○開催日程

第1回 2023年3月4日(土)
14:00～16:00
「平和をつくるを仕事にする」
ももち文化センター 第2研修室
(対面開催)

第2回 2023年3月5日(日)
14:00～16:00
「アドボカシーことはじめ」
(オンライン開催)

第3回 2023年3月11日(土)
13:30～17:30
「国際協力の現場と
私たちの関わり方(仮)」
ももち文化センター 第2研修室
(対面開催)

○参加費(資料代)

一般：各回1000円、3回通し2500円

学生：各回500円

主催：(特活) NGO福岡ネットワーク

後援：福岡市

○参加申し込み・問い合わせ

☎ 092-405-9870

(火～土 13:00～18:00受付)

✉ funn@ngofukuoka.net (24時間受付)

*第1回、第3回はオンライン配信も予定しています(質問等はチャット受付)

*第2回はオンラインが難しい方、若干名FUNN事務局で視聴いただけます。(お問合せ下さい)

★運営ボランティア募集中★

NGOカレッジの企画・広報・当日運営に関わるボランティアの方を募集しています。出られるところだけでも結構です。ご希望の方は上記申し込み・問い合わせまで！！

○会場で参加される方は、マスク・検温等感染症対策にご協力ください。



講座日程・内容

【第1回 3/4】

**平和をつくるを仕事にする
～地雷や子ども兵問題に取り組んで～**



【講師】

◎ **鬼丸昌也氏** [認定NPO法人テラ・ルネッサンス創設者・理事]

アジアやアフリカ、支援の現場で得た様々な経験や、紛争に関する事実を伝え、争いのない社会をつくるために「私たちに何ができるのか」を考えていただける機会を提供しています。現代社会の様々な問題の中から、地雷、小型武器、紛争ビジネスなど、平和に関する問題を国際機関、現場のデータを基に分かりやすくお話しします。

【第2回 3/5】

**アドボカシーことはじめ
～なぜアドボカシーをするのか**



【講師】

◎ **神田浩史氏** [NPO法人泉京・垂井副代表理事]
◎ **鈴木千花氏** [持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (JYPS) 事務局長]

NGOの大切な役割の一つに政策提言（アドボカシー）があります。政策や制度に影響を与えより良きものにしていくものです。国際機関や政府、自治体への政策提言の具体的な経験をもとにNGOのアドボカシー活動について一緒に考えていきましょう。

.....

【第3回 3/11】

第1部：国際協力の現場と私たちの関わり方



【講師】

◎ **林裕氏** (福岡大学商学部貿易学科准教授)

様々な立場で平和構築や開発援助の経験を持つ林氏に、海外での国際協力の現状や課題、また市民が国際協力に関わっていくには何が必要か等国際協力に参加するためのヒントを伺います。

**第2部：NGOと出会おう！
～活動紹介と個別相談会～**



NGO活動をしている団体から、直接（一部オンライン越し）活動内容や個人での支援方法、ボランティア・インターン等の情報を聞くことができます。

[参加団体 (予定)]

Bangladesh and Hand-in-Hand Association	ISAPH
Japan International Volunteer Center / JVC Kyushu Network	Friends International Workcamp Kyushu
Earth Citizens Association	



NGO相談レポート

海外ボランティア・国際協力
に関する相談はコチラから→



NGO福岡ネットワークは、外務省よりNGO相談員事業を受託しております。

数多く寄せられる相談のなかからピックアップして、報告いたします。



おおいたワールドフェスタにブース出展しました

11月5日に大分市で開催された『おおいたワールドフェスタ2022』にNGO相談員出張サービスとしてブース出展しました。当日は、ネットワーク加盟団体さんの情報発信やイベントに来場された市民の方から寄せられた国際協力に関する疑問、国際ボランティアに関する相談に対応いたしました。ブースに訪問された方からは「将来国際協力に関わってみたいと思っていたので相談できてよかった」というお声をいただきました。（松崎）



糸島市立前原南小学校に出張授業を実施しました。

11月9日に糸島市立前原南小学校の小学5年生38名を対象に出張授業を行いました。当日は国際的な問題やそれを解決するための計画立案についての授業の実施しました。

授業を受けた児童からは

- ・「発展途上国の様子を知ってびっくりした。」
- ・「SDGs達成に向けて、自分にできることを見つけたことができた。」

という感想を頂きました。（加藤）

FUNN加盟団体 information

【JVC九州ネットワーク】 JVC 国際協力カレンダー2023

長年ご愛顧いただいた、日本国際ボランティアセンター（JVC）の『国際協力カレンダー』、2023年版が最後の制作です。収益はJVCのアジア・アフリカでの活動への支援となります。

◎注文に関するお問い合わせ

TEL:050-5443-6083（1/31まで）

FAX:050-3737-9084（1/31まで）

メール：calendar.info@ngo-jvc.net



詳細はHPでご確認ください。
またAmazonでも購入できます。

【Bangladesh and Hand-in-Hand Society】 Bangladesh Curry Cooking Class

Bangladesh家庭料理定番のチキンカレーの作り方を学べるチャンス！留学生の方より作り方を教えてもらいます。当日は調理に適した服装でご参加ください。

2023年1月29日 10:00~15:00

福岡市健康づくりサポートセンター9階調理室

参加費：大人1500円 小中高生750円

問合せ先：info@teotunagukai.com



参加申し込みフォーム

【FUNN応援募金のお願い】



NGO福岡ネットワーク（FUNN）では、九州地域に拠点を持つNGOとネットワークを作り、会員団体には組織基盤・活動実施能力向上のための研修・学習会、市民の方には各ネットワーク加盟団体の活動をお知らせする他、国際理解の普及、国際問題をともに考える講座や相談業務を行っております。

昨今の社会情勢により、NGO団体として活動がより厳しい状況となりつつあります。FUNNでは「FUNN応援募金」を設置して、皆さまからの寄付を受け付けております。今後も継続的な活動を行うには皆さまからの暖かいご寄付が必要です。ぜひ私共の活動にご賛同頂ける方は「FUNN応援募金」へご協力をお願いいたします。

皆さまからの暖かい寄付を職員一同心よりお待ちしております。
 NGO福岡ネットワーク事務局

☆☆寄付の振込先☆☆

【西日本シティ銀行】
 加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
 カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク
 支店番号：208（赤坂門支店）
 口座番号：普通 1641291
 ※メモ欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。

【郵便振替】
 加入者名：NGO福岡ネットワーク
 口座番号：01790-7-89478
 ※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。
 ※会費振込もこちらの口座まで

FUNN会員募集中！

活動を継続して支えてくださる会員を募集しています。

- ・正会員（団体）¥10,000
- ・賛助会員（個人）¥6,000
- ・通信会員（個人）¥3,000
- ※金額は年会費です。

入会に関してはこちらからHPをご確認ください。



FUNN正会員団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トウマンハティふくおか
- * ネパール歯科医療協会(ADCN)
- * 芭蕉繊維研究会
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

FUNN 特定非営利活動法人
 NGO福岡ネットワーク

〒812-0011
 福岡市博多区博多駅前3-6-1
 小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
 最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00
 * 日・月・祝・・・休み



: 092-405-9870



: funn@ngofukuoka.net



: https://ngofukuoka.net/